

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891400073
法人名	株 だんだん
事業所名	グループホーム つるかめ
所在地	西予市野村町2 - 1 0 9 - 1
自己評価作成日	平成26年11月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念にあるように「自分の生活を利用者自ら選択し、役割を持ち安心して生活できるように支援して行く事です。単調な生活でも自分だけじゃない・・・皆となら出来る事を求め家族や周辺の子供、大人に協力してもらい、ここに入所したら此処で花が咲くように・・・が此処の暮らし方です。自然や人間関係に恵まれ昔のままで静かに過ごしたり、子供や地域の方の訪問やボランティアと忙しいのが嬉しい！ 自分の力でゆったりと周囲に感謝されながら職員と共にパワーアップしてゆきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●「8」の付く日に、ご自分が建てた祠の掃除を続けていた利用者には、ご自分で掃除することが難しくなった現在も、月に1～2回、職員が付き添い、一緒に掃除してお酒を供えられるよう支援されている。利用者は、とても安心されるようだ。地元のイベントである乙亥大相撲を楽しみにしている利用者も多く、出かけられるように支援されている。にぎわう出店を廻ったり、生中継の取組を観て、利用者は「これで今年も終わり。正月が来るな」と一つの節目として受け止めておられるようだ。
●職員全員で利用者個々の行動の傾向を共有しており、外に出かけていく利用者の様子で「自由に過ごして頂く」「職員が同行するか」見極めている。歩く速度が速い方等もいるため、もしもの時に備えて、現在、利用者の顔写真や特徴をまとめ、警察に提出できるよう「徘徊防止情報ファイル」を順次作成中である。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム つるかめ

(ユニット名) つる

記入者(管理者)

氏名 古田 康子

評価完了日

2014年11月20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者自ら自分の生活を選択する力を支援し、理念を基本に職員は定期的に研修会を持ち職員の質向上に努めている。 (外部評価) 「選択する自由と安心できる生活を送れる」という理念を事業所全員で共有し、職員は日常支援の中で、価値観を押し付けず利用者の声を聴くことを心がけておられる。利用者が、沢山の選択肢の中から選ぶことが難しくなった場合は、小さな選択肢を提示して支援されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 行事、催し物など見学に外出したり、市内の中学生の体験学習や訪問で利用者や地域の方の交流の機会を活用。近所の方と日頃より散歩の時に声掛けの交流もある。 (外部評価) 地区の常会時に事業所のパンフレットを配り、サービス内容を知ってもらえるよう努めている。周囲を散歩したり、庭で歌を歌っていると、近所の方が畑の行き帰りに声を掛けてくれて、事業所の菜園を見てアドバイス等もして下さる。法人では、デイサービスの休日を利用して「認知症カフェ」を開いており、お茶を飲みながら話したり介護相談を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 施設の年間行事(観月会)など、日頃からお世話を頂く近所の方や地域の協賛者を招待し施設内の在りかたを実際に見て頂く。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 開催時は近況報告に利用者の全体の介護状況の変化、防火訓練等の報告をし施設側の依頼事も同時に提示する。徘徊や災害時対応の情報を提供頂き提供事項は実践するよう心がける。	
			(外部評価) 会議には、利用者やご家族、民生委員等が参加されており、事業所から活動等を報告して、その後、徘徊や防災等、地域と協力し合って取組みたい内容について話し合っている。開設から1年半が過ぎ、「あまり格式ばった会議だと意見が出にくいのではないか」「イベントで終わるのもどうか」と、管理者は会議のあり方について考えておられる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には市役所担当者に参加いただき、意見や新しい情報を頂く。最近では災害時の情報を早く入手する方策を頂く。又、市役所に行き直接介護の情報も頂く。	
			(外部評価) 市からは、介護保険の変更、感染症や防災について等、その都度情報提供がある。市主催の研修会には職員が交代で参加し、レベルアップや情報を得る機会となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 敷地内や玄関ホール等は無施錠で自由に入出りが出来る。利用者は自由に行きたい所で活動される。屋外に出るよう手すりの設置もある。ベットや車椅子においても職員間で拘束してないか話し合う。	
			(外部評価) 職員全員で利用者個々の行動の傾向を共有しており、外に出かけていく利用者の様子で「自由に過ごして頂くか」「職員が同行するか」見極めている。歩く速度が速い方等いるため、もしもの時に備えて、現在、利用者の顔写真や特徴をまとめ、警察に提出できるよう「徘徊防止情報ファイル」を順次作成中である。ベッドからの立ち上がりに不安がある方には、滑り止めマットとセンサーで転倒防止できるよう対応されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会などで参加し参加者の報告や介護経験者の直接、間接の指導や助言で暴言暴力が起きないように話し合う。職員間でも疑問な点は直接に話し合い解決していく。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し受講した内容は職員会等で発表し理解出来るよう学ぶ。文章での解釈が多く実際には当面する機会も少ないが何時でも活用出来るように心掛ける。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前から事前に訪問し家族や本人に施設の方針や方向性を分かるように何度も納得がいくように説明し理解をして頂き、利用者が理解したうえで入所して頂く。契約や解約においても説明書の内容を理解頂くようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族や関係者にはご意見を直接に丁寧にお聞きし出来るだけ早い解決策を報告し実践するよう心掛けている。又、玄関には意見箱の設置もある。面会時などは家族の声掛けも大切にしている。 (外部評価) 利用者個々に担当職員が、毎月、利用者の近況を詳細に書き、ご家族に送付されている。ご家族来訪時には、居室や居間等を選んで過ごせるよう声かけされている。遠方に住むご家族とは、帰省時やメール等を使って情報をやり取りしている。今後、事業所便りにて、事業所のことを知ってもらえるよう、銀行や病院に置かせてもらうことを考えておられた。	管理者は、「ご家族から自由に本音の意見を言ってもらえないのではないか」と感じておられる。ご家族が事業所の運営に意見や要望を具体的に出せるような場や機会を工夫して、一緒に考えながら取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。又、ご家族同士、同じ立場での話し合いの機会も作ってみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の職員会には施設内の問題には意見や提案を受け入れその場で解決出来るよう話し合い実践するように努める。事後の検討も対応していく。緊急な件は毎日の申し送り時に行い他職員にも報告する。	
			(外部評価) 外部研修の案内は、職員の目につくところに貼り、受講を勧めている。受講後は内容を報告する仕組みを作っており、管理者は、全員で少しずつレベルアップしていきたいと考えておられる。職員は、研修時、嚙下と姿勢の関係について学び、利用者がむせない姿勢で食事ができるよう支援に取り組みされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者等は職員が気持ち良く働ける様いつでも職員の意見や要望を気軽に聞いて頂く。体調や家族等の事のさしさわりなく話せる。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 提案すれば研修には積極的に参加したり、研修の結果発表の実践を交えての研修に職員は受講する。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 県外や地区内の研修には機会があれば参加し、参加した職員は職員会で意見の発表機会は与えられる。書面と講義などあり。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時は不安も多くあり落ち着かれないので、そばに寄り添って話を聞いてあげるとほっとされる。数日間は環境になれるまでの不安や言動があり目配りや声掛けを多くし、自分で出来る事、出来ない事の見極めも観察し支援する。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) どんな些細な事も少しずつの積み重ねです。丁寧に理解出来るよう安心して頂くよう話を聞く。聞いたら解決法を相互で話し不安の解消に努める。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所前に入った情報を本人や家族と話し合いながら本人が施設で安心して生活できる方法を他の介護関係者にも情報を聴きながら対応していく。インフォーマルな資源の活用も幅広く提案してみる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家族のような気持ちを持って介助する。利用者の心身の負担が軽減できるよう観察や言動を受容し対応、お互いが信頼できるよう声掛けしていく。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 「なんでも話してください・・・」と心を開いて話かける。生活歴や趣味・家族関係などを事前に聞き取り情報収集で本人の理解と要望を共に叶えられるよう面会などに会話の機会を利用する。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) その人それぞれの思いをいつまでも大切に記憶の中で生かせるよう生活歴の馴染みの人、物、自然と触れ合うよう支援していく。地方祭や子供の行事を招待する。 (外部評価) 「8」の付く日に、ご自分が建てた祠の掃除を続けていた利用者には、ご自分で掃除することが難しくなった現在も、月に1～2回、職員が付き添い、一緒に掃除してお酒を供えられるよう支援されている。利用者は、とても安心されるようだ。地元のイベントである乙亥大相撲を楽しみにしている利用者が多く、出かけられるように支援されている。にぎわう出店を廻ったり、生中継の取組を観て、利用者は「これで今年も終わり。正月が来るな」と一つの節目として受け止めておられるようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 活動出来る時間はユニット間で自由に行き来している。計画的にも誕生会や訪問ボランティアなどは1か所に集まり合同で楽しむ。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 個人でも異なるが退所がわかったら次の住居を訪問したり、出来る限りの人とかかわりがスムーズに出来るよう情報の交換する。家族とも関係の継続を依頼し必要に応じて情報も提供する。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 理念でもあるように自分の生活を利用者自ら選択出来るよう、話しかけたり無理なく要望をキャッチできる介助に努めている。全部の要望を聞くことは困難であるが希望がかなえられるよう支援する方法を考えていく。 (外部評価) 女性利用者の中には、男性職員を避ける傾向にある方がおり、ご本人の気持ちを大切に無理に接近しないよう気を付けている。気持ちが不安定になると急に家に帰ろうとする方には、職員は常に目配りして見守っている。又、新しい利用者が入居すると、職員の気や目がそちらに向くのを感じ、いつもより自分の方に注目してほしいという行動が見られるようで、職員は時間をとってじっくりと話を聴くようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) この施設に来てよかった！と言ってもらえるようなサービスにつとめている。 入所前から生活拠点を中心に周囲の環境や生活歴の情報を収集し無理なく過ごす環境作りに努めるが、病気や人間関係で無理な場合は家族、関係者で相談し本人にとってベストな方法を検討する。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の過ごしやすい生活を考えつつ住みやすい暮らしを支えている。残存能力や回復進行が少しでもあるなら伸ばしつつ達成の喜びを共に味わう。利用者の希望が持てるように支援する。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 月1回の職員会には利用者のモニタリングをし、職員の意見を聞き次回のプランに必要な支援、本人家族の要望等を十分に収集する。本人の現状は心身共に細かく話し合い情報の共有に努める。</p> <p>(外部評価) 計画作成担当者は、利用者の言動やご家族の希望、職員の気付いたことを基に介護計画を作成している。モニタリングは、職員全員で毎月行っており、利用者一人ひとりの支援について話し合いをされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護記録にも記載するようにプランの達成を日々記録、申し送り時に情報の共有を心がけている。継続的な事項は別紙に記載し職員で共有する。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 突発的なサービスは本人の要望を重視しその場の勤務者で出来るだけ対応できるよう話合う。体調や季節、天候などで左右される事もある。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 老人会、地方祭、近所の交流など日頃より情報の収集と地域の協力を惜しまず施設からの呼びかけも行い参加して楽しむ利用者の支援する。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 月1回の定期往診があり気がかりな点や変化したことなど相談に対応して頂く。季節の変わり目などは体調の変化もあり大事に至らないよう医者からの早期治療なども受けられ特定の治療や変化は家族にもお伝えできる。	
			(外部評価) 月1回、協力医の往診があり、緊急時には連絡がつくようになっている。専門医と協力医との連携もとれており、投薬もそれぞれから受けている。他の受診については、宇和島市や大洲市くらいの距離であれば事業所で通院介助するが、遠方は、ご家族と相談して対応を決めている。老人保健施設から入居となった方には、継続して理学療法士が月に1度来てくれており、傾向と対策についてアドバイスがある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 常時に利用者情報を伝え異変や利用者の情報には医者と連絡を取って対応し指示頂く。個人の情報も常にチェックをし適切なアドバイスを頂く。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 日頃から看護師を中心に相談し医者との連携を取りながら病院とよりこまやかに連携体制を取るようになっている。担当医者より定期受診などでの情報を細かく連絡して頂き入院後も引きつづいて支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合の介護指針についての同意書で看取りになった時の施設の方針やご家族の支援などを説明しご家族の意向を受け入れた形で支援に努める。地域の医療関係者とも日頃から情報の共有を頂く。	
			(外部評価) 終末期については、事業所から説明を行い、ご家族に希望を聞いており、現在は、10名ほどの方が事業所での看取りを希望されている。具体的には重度化してから、再度意思確認することになっている。職員に対しても、「身内の看取りを経験したことがあるか」等、アンケート調査が行われた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師や実務経験者から応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。事故になっても落ち着いて対応できるチームワークを継続しマニュアルに添っての対応も研修で習得している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 専門家や職員間で訓練を定期的に行っている。災害時の避難訓練では利用者や近隣者を交えて訓練し一人でも対応できるよう習熟するまで行う。 (外部評価) 管理者は、訓練を重ねることで、いざという時、職員が慌てず行動できるようになることを目指しておられる。年2回の避難訓練の内、1回は、近所の方の協力も得て、夜間の火災想定で行われている。又、救命救急法は、年1回、利用者にも見学してもらいながら講習を行っている。車いすを使用する利用者が増えたことで、玄関には、ユニット別にスロープが設置されており、裏の段差にもスロープを設置する予定となっている。	事業所は耐震建築でもあり、地震の場合は近所の方の避難場所になる可能性も考えられる。地域との協力体制の整備や利用者の状態を踏まえて、より具体的な訓練を重ねてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 生活歴の中で利用者の望む生活を支援し各人の個性を認め価値観やプライドを尊重する。ここで数十年の人生を続ける事に支援している。 (外部評価) 管理者は、利用者を「こういう人」と決めつけて大切なサインを見逃さないよう、職員に伝えておられる。共同生活を踏まえて利用者の服装等についても、プライバシーを守るようその都度話し合いながら、ご本人が納得いくような支援に努めている。行動を共にしたいが、相手はあまり良い思いをしていない様子が見られるような時には、職員が間に入って気を逸らす等して、お互いに嫌な思いをしないような支援に努めておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃より自分の思いは言葉や感情で受け取るように耳を傾け声掛けている。自分で屋外に出る人には付き添い、花を咲かせたい人には一緒にプランターの管理を行う。自分ではできない分を後ろから支えてゆきたい。日頃から声掛けの大切さを学んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者に合わせその日の流れに添うようにしている。本人の体調や天候も考慮し個人個人が気持ち良く過ごせる時間を提供している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の能力に合わせて準備出来るところまで見守り、清潔で個性に合ったお洒落が出来て笑顔になるように、自分のセンスも磨くようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べる事は一番の楽しみでエネルギーや体作りの基本にもなるものであり、献立表を見ながら調理をする。治療食等は見た目や代用品等で作る。片づけ等は声掛けで出来る人の能力に合わせる。	
			(外部評価) みなで、よもぎ等、季節の物を下処理して、干したり、茹でたり、冷凍する等、工程を大切に、楽しみながら行えるよう支援されている。調査訪問時には、寿司のごぼう削ぎをしている利用者が見られた。献立は、ユニット毎に立てており、利用者の食べられないメニューがあれば、別ユニットから分けてもらう等して対応されている。誕生会には、個別に好みを聞いており、現在は、ちらし寿司・ちんちまんま(白ご飯)・赤飯・そうめん汁・酢物が定番となっているようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 体調の変化もその記録や情報により水分、カロリー塩分等の配分には考慮しているが、利用者の好みも優先順位を確保して作る。地方行事なども料理に生かし味わう。一番は美味しい・・の言葉が聞ける事。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は歯磨きやうがいの声かけ自分の力で磨いてもらう。一人だけ拒否者がいるが声掛けは絶やさない。義歯や口腔内の状態の観察する。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			自立者には移動時の転倒見守り、排泄チェック表も活用し、排便間隔で薬のコントロールや排尿の汚物交換介助など自尊心を傷つけないように清潔で快適な介助をする。出来ない事のみ介助していく。	
			(外部評価)	
			広いトイレに不安を感じる利用者には、少し狭い方のトイレを使っただけよう誘導されている。介助を嫌がるが、動作に不安がある場合は、少しドアを開けておき、職員が外で待機して必要があればサポートするようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			屋外散歩で体を動かす。腸内運動として毎日ヨーグルトを飲み便秘しないよう工夫している。体調や病歴で個人差もあり水分補給など対応可能な事は工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			自己決定出来る方はほぼ利用者の希望に添うよう、他の方は週2回以上は利用者の体調と清潔保持に努めている。個人差もあるが入浴時の会話は本音が聴け介助のきっかけとつながる。危険の伴う方はデイの特浴の活用もある。	
			(外部評価)	
			ユニットによっては、リフトを付けており、両方の浴室を調整しながら使用している。浴室内の動きに不安がある場合、利用者と介助者双方が腰ベルトを装着して、安心して入浴できるよう支援されている。「入浴しない」と強く意思表示する方には、入浴のあり方についてご家族も一緒に話し合う場を持たれた。ご本人は「10日に1回なら」と言われ、納得して入浴されているようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			入所期間の長い方は個性や生活習慣も理解でき個人に合った入眠を支援しているが、寝具や気温もその時に合った心地良さが得られるように個人に合った寝具で休む。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	各個人の薬の管理や病理に対する効能などをに解釈し、服用の場合も誤薬等のないように2重に服薬チェックする。即効性のある薬については服薬後の観察も確認する。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	イベント、誕生会など積極的に行いボランティアによる歌や踊りを楽しんでおられます。日常的に外気浴、散歩、合唱などを行っている。個人的にも外食や買い物支援、美容室にも行くなど希望に添うよう支援する。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	近くの店で食事を楽しみドライブなどにも行く。買い物は楽しみの一つです。地方祭には優待され昔馴染みの賑わいを味わいます。かまぼこ展に作品を出品し展示されたら皆で展示場に行きました。
			(外部評価)	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	入所時に家族や本人の確認を取りながら自由にお金を使う意思や能力に応じて支援。本人が管理することも出来るが、出来ない方は衣類など希望品を聴き支援をする。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	家族の声が聞きたくなったら電話も自由ですが、入所前に家族と話あい了解範囲内で電話をつなぐ。ギフトや郵便物の受け取りもあり母の日や敬老の日は花がきれいに並びます。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 絵画教室の作品や季節ごとの壁絵等、利用者の出来る事を一緒に考え作り展示している。ボランティアの折り紙教室での作品作りはユニット合同教室となり利用者のふれあいにもなる。季節ごと遮光や外気温には時間差等でも調整していく。	
			(外部評価) 平屋2ユニットの事業所で、玄関や物干し場、ベランダ等は屋根付きのオープンスペースで、自然の景色を眺めながら歌を歌ったりお弁当を食べたりして楽しんでいる。畳や木製のベンチが廊下や玄関に配置され、利用者は、外を眺めたり、おしゃべりしながら過ごせるようになっている。夜、ドアのガラスに写ったご自分を見て不安になる方がおり、早めにカーテンを閉めるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファ、机、椅子、ロビーやホール、和室等は自由に座り交流が出来るよう介助支援している。自分の居心地の良い場所に移動もされるが転倒等には十分に目配りする。居室のベッドで静養するのも個人の自由です。	
			(外部評価) 家から持参した寝具や家具はもちろんです。新たに過ごしやすく安全に気持ち良く過ごすよう本人の要望に応じ支援する。シーツ交換や清潔で気持ち良くすごして頂く支援する。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 窓は、椅子に座っても外が見渡せるように低めに設置されている。ベッドとタンスは備え付けとなっており、収納スペースが整備されており、利用者の使い慣れた物の持ち込みはやや少な目であるが、テレビや椅子を持ち込み、お好きなテレビ番組を見て楽しむ方がおられる。居室空間づくりについては、利用者個々のご自宅でのお部屋等も参考にしながら、愛着のあるものの中で過ごせるように、ご本人やご家族と相談しながら整備に取り組まれてはどうか。	
			(外部評価) 利用者の能力に合わせ安全に「出来る事」「理解出来ない事」を見極めるため背中を少し押して前進出来る生活の支援。ここで花が咲く人生を送ってほしい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			(外部評価)	